

令和5年度第1回おおいた子ども・子育て応援県民会議 議事録

日時：令和5年8月2日(水)14:00～16:00

場所：大分県庁 本館2階 正庁ホール

事務局 それではただいまから令和5年度第1回おおいた子ども・子育て応援県民会議を開会いたします。はじめに、本日は委員改選後第1回目の開催となっておりますので、名簿の順に、委員の皆さんをご紹介させていただきたいと思っております。お名前が呼ばれましたら、お手数ですがその場でご起立をお願いいたします。

(委員紹介 省略)

事務局 本日は神田委員がご欠席となり、委員28名中27名のご出席をいただき、定足数である過半数を満たしていることをご報告いたします。それでは続きまして、佐藤知事よりごあいさつを申し上げます。

佐藤知事 皆様、こんにちは。ご紹介いただきました大分県知事 佐藤でございます。今日は、令和5年度第1回おおいた子ども・子育て応援県民会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。また2年に1度の改選ということで、今回新たに、また継続して委員をお引受いただきまして、心から感謝を申し上げたいと存じます。私もこの4月に県民の皆様初めて選んでいただきまして、県知事の職を担わせていただいております。選挙の時に各地を回りました時も、少子化、そして子育てを何とかして欲しいという声をたくさん伺いまして、全国でもそうでありませけれども、子育てをどのように充実させていくかというのは、今、大変重要な課題の一つではないかというふうに感じております。そのためにも、この会議で、こども・子育てに関する幅広い知見を有する皆様にご出席をいただきまして、意見を言ういただくと大変ありがたいと感じている次第でございます。大分県も子育て満足度日本一ということで、前広瀬知事の時からずっと取り組んでおりますけれども、その取組をさらに充実し、また発展をさせていきたいなというふうに考えています。今までの施策でございますと、本会議でいろんなご意見を賜りまして、それを踏まえて、多胎児育児でありますとかヤングケアラーへの支援等について、施策に反映させてまいりましたし、また本日定例県議会が閉会しましたけれども、そこでも妊産婦の方々の交通費の支援でありますとかいろんな施策を入れて、少しでもこども・子育て支援を充実させたいということで取り組んできているところでございます。委員の皆様におかれましては、ぜひそれぞれの専門の立場から実際に感じておられること、生活者の立場、子育てしておられる立場など、様々な立場から忌憚のないご意見を願ひ申し上げます。それでは、ぜひ2年間、よろしく願ひ申し上げます。

事務局 ありがとうございます。それでは次に会議に先立ちまして、会長及び副会長の選任を行います。会長、副会長の選任につきましては、おおいた子ども・子育て応援県民会議条例第4条により、会員の皆様の互選により選任することとなっております。どなたか会長、副会長に立候補、またはご推薦される方はいらっしゃいますでしょうか。

事務局 特にご意見がないようでしたら、事務局に案がございますので、そちらをご提案させていただきます。よろしいでしょうか。

(一同異議なし)

事務局 それでは事務局の案といたしましては、大分大学教育マネジメント機構教授の岡田委員に会長を、また、大分大学福祉健康科学部教授の相澤委員に副会長をお願いできないかと考えておりますが、いかがでしょうか。

(一同異議なし)

事務局 ありがとうございます。委員の皆様方からご賛同いただきましたので、岡田委員を会長、相澤委員に副会長をお願いしたいと思います。では、大変お手数ですが岡田委員、相澤委員は、会長席、副会長席へご移動をお願いいたします。それでは会長、副会長に選任されましたお二方に、ごあいさつをいただきたいと思います。まず、岡田会長からお願いいたします。

岡田会長 皆さんこんにちは。大分大学の岡田と申します。よろしくをお願いいたします。私、社会教育を専門として大分大学に赴任して 25 年、四半世紀あっという間に経ってしまいました。本会議の委員になってから 8 年経ちましたが、社会教育で関わっていた子ども・子育てに比べて、多様な子育てであったり、いかに多様な課題があるかということ、この会議に出るようになって感じるようになりました。いろんな立場から委員が来られていますので、それぞれ積極的にご発言いただいて、課題を掘り起こしたり、それについてどう取組めばいいかなという話もしたいと思っておりますし、またこの会議で発言するだけじゃなくて、会議の前後でいいのでまたネットワークができたりして、取組ができると素敵かなとも思っております。この会議は、前の広瀬知事の時代からずっと知事が実際にこの席に来ていただいて、ごあいさつそれから最後の感想などを述べていただき、会議で出した意見をすぐに拾い上げて施策化していただいたりということで、もう、非常に動きのいい会議なので、ぜひ皆さん積極的に関わっていただいて、充実した話し合いをし、それが具体的な施策であったり、私たち自身の取組に繋がるように、そんな会議になるといいなというふうに思って、私も一緒に参加させていただこうというふうに思っております。ただ全部で 20 数名という大きな会議ですので、1 人がしゃべると、だんだん話が、熱がこもって長くなって、一周終わる頃には時間が終わってしまうということになりがちなので、できれば短時間・多頻度発言で、短くまとめてたくさん何度もやりとりするという、そんな活気のある会議にしていきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

相澤副会長 副会長を拝命いたしました相澤でございます。それでは短めに。岡田会長と同じ大分大学でございますが、私は福祉の分野でございます。会長をサポートしながら、今会長が述べたことがスムーズに運営できるようにサポートしていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。それでは、以降の議事進行は議長であります、岡田会長をお願いいたします。

岡田会長 それではよろしくをお願いいたします。次第に従いまして進めたいと思っておりますけれども、大まかな時間配分といたしまして、議事（１）の行政説明については 10 分程度。その後、たっぷり時間を取って、意見交換を 80 分ほど行って 16 時までには閉会をしたいというふうに思っております。議事の円滑な運営につきましてご協力をよろしくお願い申し上げます。では、議事（１）行政説明の①おおい子ども・子育て応援プラン第四期計画の進捗について、それから②国の子ども・子育て施策について、それから③県の令和 5 年度施策について、まとめて事務局の方からご説明をお願いいたします。なお、質問等につきましては、次の意見交換の中でお伺いしたいと思いますので、それぞれのご発言に合わせて質問などもしていただければと思います。では事務局の方からご説明をお願いいたします。

今井課長 皆さんこんにちは。こども未来課長の今井と申します。私から行政説明ということで説明をさせていただきます。まずはおおい子ども・子育て応援プランの概要ということで、資料の 9 ページをお願いいたします。今回新たに就任された委員の方が 18 名いらっしゃるということで、このおおい子ども・子育て応援プランの概要について、ちょっと時間をいただいて説明をさせていただきたいと思っております。お配りしております青い冊子がプランの全体ですので、詳細は後ほどご

確認いただければと思います。まず、計画策定の趣旨等でございますけども、このプランは、次代の社会、社会を担う子どもたちが健やかに生まれ、育成される社会形成のため、次世代育成支援対策を迅速かつ重点的に推進するための行動計画ということになっております。計画の期間は令和6年度までということになっておりますので、来年度は改定の作業がございます。ですので、この会議を今年以上に回数を設けまして、皆さんの意見をいろいろ伺う機会を設けたいというふうに思っておりますのでよろしく願いいたします。続いて、現状と課題ですが、未婚率の上昇による婚姻数の減少や、晩婚化の進行、出生数の減少、それから保育所定員数や放課後児童クラブの利用者数は共に増加し、また、児童虐待の相談対応件数は増加などの状況を受けまして、結婚を希望する若者への支援や、待機児童の解消、児童虐待に対する取組等を行っていかねばならないというふうに思っております。施策の体系でございますが、目指す姿として、一人一人の子どもが健やかに生まれ育つことができる温かい社会、子育て満足度日本一の実現を掲げまして、5つの具体像と、それを実現するための8つの基本施策を定めております。また、一番下の評価体系にありますとおり、個別事業ごとの評価指標88項目と、11項目の総合的な評価指標を設け、毎年その評価を行い、翌年度以降の施策に反映をさせているところでございます。10ページをお願いいたします。先ほど説明いたしました11項目の総合的な評価指標でございます。このうち全国順位を出すことが可能な項目がございまして、具体的に言いますと、②不妊治療費などの制度比較、③女性の就業率、④合計特殊出生率、⑤6歳未満の子どもを持つ男性の家事・育児関連時間、それから⑥ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合、それから⑧保育所・⑨放課後児童クラブの待機児童数。それから⑩自己肯定感のある子どもの割合という、8項目の指標でございます。これらを都道府県比較しまして、毎年総合順位を出しております。これが1位となれば子育て満足度日本一という整理をしているところでございます。今年の順位でございますが、表の一番下にありますとおり、11位ということになりまして昨年の4位から順位を下げております。その要因といたしましては、⑤6歳未満の子どもを持つ男性の家事・育児関連の時間が、12位から46位に下がったということが大きな要因でございます。時間的には88分から84分ということで、あまり変わっていませんが、他の県が向上したということで相対的に順位が下がったということでございます。今後は、男性の家事育児に対する施策に力を入れていく必要があるかなというふうに考えているところでございます。それから次のページをお願いいたします。ここからは88項目の個別事業ごとの成果指標でございます。計画の最終年度の令和6年度の目標値を定めまして各部局が事業を行っております。一番右の列がその事業を担当している部局ということになります。例えば、上から3番目の社会全体において、「男女の地位が平等」と感じる人の割合は、生活環境部が担当しております。その2段下の出会いサポートセンターの成婚数につきましては福祉保健部。それから、その2段下の7番目の若年者の就職率につきましては商工観光労働部が担当しているといったように、各部局がこの指標の目標達成に向けて施策を実施しているところでございます。各項目の目標値、実績値等については記載のとおりですので、後ほどご覧いただければと思います。続きまして、国の子ども・子育て政策について説明をさせていただきたいと思っております。資料は16ページです。今年4月に子ども家庭庁が発足し、子ども家庭庁は年齢や制度の壁を克服した切れ目ない包括的な支援ということを掲げております。例えば、表中の点線で囲っている部分につきましては新たに取組むものということで、子どもの居場所に関し、子どもの居場所づくり指針を策定して、放課後児童クラブ、児童館等子どもの居場所づくりに重点的に取組んでいくということにもなっておりますし、子どもの意見聴取と政策への反映ということで、今後子どもからも意見を聞いて、その声を政策に反映するというような取組を実施することになっております。17ページがスケジュールです。主なものといたしましては、秋以降に子ども大綱が閣議決定される予定となっております。それから、先ほど説明しました子どもの居場所づくりに関する指針も秋以降に出して、令和6年度以降政策が実施されるという流れになっております。18ページをお願いいたします。これが今年の6月に閣議決定された子ども未来戦略方針でございます。少子化対策の強化に向けて児童手当ですとか、育児休業給付の拡充などの具体策が盛り込まれております。令和6年度からの3年間につきましては、予算規模は3兆円の半ばで加速化プランとして集中的に取り組むとされております。具体的には、経済的支援で言いますと、児童手当について、所得制限を撤廃し、高校生まで支給対象を延長、また、第3子以降は月3万円と

いう内容の拡充を、令和6年度内に実施する予定となっております。それから、保育サービスの拡充ということで来年度からこども誰でも通園制度(仮称)が始まるということになっておりますし、共働き・共育での推進ということで、育児休業給付の拡充というのもし示されております。ただ、まだ詳細についてはわからない面もありますので、今後も国の動きを注視していきたいと考えております。続いて、県の令和5年度の施策についてご説明いたします。資料20ページをお願いいたします。時間の都合もありますので、すべてについて説明ができませんけども、今回の補正予算で計上させていただいたものを中心に説明いたします。①子育てしやすい環境づくりの推進では、上から3番目のおおいた子育てパパ応援事業ということで、先ほどご説明した全国46位になった男性の家事・育児時間の状況等も踏まえまして、男性が働く企業に出前講座として講座を行いまして、職場全体として子育て応援できるような環境づくりに取り組んでいきたいと考えております。それから、②結婚・妊娠の希望が叶い子どもが健やかに生まれ育つ環境の整備ということで、妊産婦健診等支援事業でございます。先ほど知事のあいさつの中にもありましたが、自宅の近隣に産科医療機関がなく、出産に不安を感じている妊産婦さんに対して、交通費や宿泊費を支援して、安心してこどもを産める環境づくりに努めてまいります。それから、③児童虐待の未然防止、早期対応等切れ目ない支援では、ヤングケアラー等支援体制強化事業に取り組んでいます。支援が必要なヤングケアラーが県内に約1,000人いるということで、専門のアドバイザーや支援コーディネーターを配置して、適切な支援体制を構築することとしております。④子どもの貧困対策やひとり親家庭・障がい児へのきめ細やかな支援では、こどもの居場所づくり推進事業でございます。先ほどのこども家庭庁の資料でもありましたが、こども食堂はこどもの居場所として重要な役割を果たしておりますので、その運営費を確保するため、クラウドファンディングによる寄付金の募集や、こどもの朝食支援などを行う予定としております。色付き記載している事業については、後ろに資料を付けておりますので、後ほどご確認をいただければと思います。私からの説明は以上です。

岡田会長 ありがとうございます。ただいまのご説明に関する質問は各自のご発言の際に、一緒に合わせていただければと思います。では、早速ですが議事(2)の意見交換に進んでいきたいと思っております。今回、初めての会議でもあり、また委員の方がかなり大幅に入れ代わられたということで、1回目の発言は自己紹介も含めて、ご発言をいただこうと思っております。会議ってだいたい順番に回すとつまらない会議になりがちなので、基本的に次回以降はどんどん手を挙げていただいてご発言いただこうと思うんですが。今回は最初の発言に関しては、五十音順にどんどん回していきたいというふうに思います。お話いただくテーマとしては、自己紹介の部分と、それから前もって「これからのこども・子育て支援のあり方について」というご意見をいただいておりますので、そちらの方を取り上げてご発言いただいても結構です。それから事前に書いてないことをしゃべっていただいても結構です。先ほどの事務局からのご説明についてのご質問とかご意見でも結構です。内容は自由でご発言いただければ結構です。自己紹介も意見も含めて、大変恐縮ですが2分をめどに、お話をいただくと、そのあともうちょっと回せるかなと思いますのでご協力をいただければと思います。あんまり長くなると私の表情がだんだん変わっていくところにご注目いただいて、お話いただければと思います。相澤副会長と私を最後にしようと思っておりますので、安藤委員からお願いできればと思います。よろしくをお願いいたします。

安藤委員 大分県医師会常任理事の安藤です。大分県小児科医会の会長も兼務させていただいております。医療の分野で特に力を入れて関わっていききたいところは、発達障がいや、医療的ケア児の支援、慢性特定疾病、病児の支援、あと虐待防止の分野では、やはり母親の産前産後のうつや、精神疾患は非常に大きなリスクになりますので、その辺のケアが医療の分野の出番かなと考えております。よろしく申し上げます。

岡田会長 ありがとうございます。それでは続きまして植木委員、お願いいたします。

植木委員 佐伯市弥生児童館館長の植木と申します。どうぞよろしく申し上げます。児童館の館長をしておりますが、私ども法人は5つの放課後児童クラブを持っております。そこの総括というのもさせていただいております。そして、今年5月から私たち児童館でこども食堂を始めました。ひとり親家庭を対象にさせてもらっております。そこは佐伯市母子寡婦福祉会の方が共催してくださっております。それから、児童館でホームスタート事業も実施しております。私個人なんですけれども佐伯市男女共同参画審議会の会長もさせていただいております。それから佐伯市がこどもミュージカルという団体を持っておりまして、芸術文化の町にしようということで、こどもが生き生き輝くまちを目指して、頑張っております。佐伯市の行政の方、こども福祉課なんですけど、とても熱心に関わってくださっていますが、ただ数年に一度担当の方が代わられて、「初めてなんです。頑張りますのでよろしく申し上げます。」と言ってそこでまた振り出しに戻ることがありますので、意見として書かせてもらいましたが、職員のうち、数名で良いので、こども福祉に関わる方を専門の職にしたいなと思っております。以上です。よろしく申し上げます。

岡田会長 ありがとうございます。書かれていることがとてもわかりました。事前に書かれた意見については資料 31 ページあたりから掲載されておりますので適宜そちらをご覧ください。では田中代理人よろしくお願いいいたします。

田中代理人 大分県認定こども園連合会で事務局長をさせていただいております田中と申します。副会長の内野の代理で参加させていただいておりますけども、認定こども園としまして、こどもたちをしっかりと育てていくという立場もありますし、また子育て支援という大事な役割を担う施設でもあります。そういった意味では、国の方、または県、また市町村等が、その辺りに関しまして、力を入れて考えてやってくれてはいますが、保育士不足であったりとか、またいろいろなこどもに関わる大変な事件や事故とかが起きたりしておりますので、そういう形を何とか打開していく必要があるなど、我々の認定こども園としまして、力を入れてはいきますがやはり、保育の質の向上であったりとか、または処遇の改善であったりとかそういったものも、今後必要になってくると思っております。その辺をぜひとも県または国の方々に対しても訴えていきたいなと思っております。また地域の子育て支援ということで、地域の方々とも繋がって、やっていけないといけないっていうのもありますし、そういう繋がりがこどもたちの育ちに対して、少しでも影響してくるというふうに思っておりますので、そういった施設が地域の拠点となって関わり合いを持って、やっていきたいというふうに感じております。今日この場でいろいろと意見交換させていただきながら、また、ここにいる方々との繋がりが大切にしていて、こどもたちのために今後も力を入れてやっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいいたします。

岡田会長 ありがとうございます。先ほどの植木委員の児童館もそうですが、こども園っていう施設からどう地域が見えるか、どう繋がりができるかっていうのもすごく大事な視点のような気がいたします。それでは岡部委員お願いいいたします。

岡部委員 こんにちは。初めてですごく緊張しておりますが、宇佐市放課後児童クラブ連絡協議会の会長を務めさせていただいております。岡部です。宇佐市は25クラブすべて連絡協議会に入っております。また皆さんと繋がりがながら、学びをしております。また繋がりたいっていうので、地域の方、それから学校、それからもうもちろん保護者もお子様もそうですが、皆さんが一生懸命学んでおります。またここに来させていただいて、しっかり私も学ばさせていただいて、帰ろうと思っております。どうぞよろしくお願いいいたします。

岡田会長 ありがとうございます。では続きまして笠木委員、お願いいいたします。

笠木委員 恐れ入ります。私は、大分には40数年ぶりに戻ってきたもので、県庁にも、学生以来初めて、足を踏み入れたというような、そんな者がこの席に座っております大変恐縮なんですけど、

商工会議所の方に、前任者が辞めたものでそこに入り、本会議を勧められ、本当に何もわからずにまいりました。どうかこれからもよろしく願い申し上げます。

岡田会長 ありがとうございます。労働の部分から発言いただくのをすごく楽しみにしております。よろしく願いいたします。それでは工藤委員お願いいたします。

工藤委員 皆さんこんにちは。県の校長会より参りました。県の校長会の研究副部長をしております。今回この会の担当になりましたので、参加させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。意見書の中にも書かせていただきましたが、次代を担うこどもの健やかな成長は私たち共通の願いです。こどもたちがどこに生まれ、どんな家庭で育ったとしても、これまでと同様、こどもを安心して任せられる質の高い教育活動を進めていくことに、学校としては変わりはありません。すべてのこどもたちの学びを保障するためには、学びの環境整備を進めることが不可欠です。とりわけ長時間過密労働の実態や、教員不足の問題、教員を目指す人の減少傾向など、学校を取り巻く環境は厳しい状況にあり、持続可能な学校の運営体制を整備していくことが、一人一人のこどもに寄り添うきめ細かな支援と、こどもの可能性を最大限に引き出す教育を可能にすると考えております。またこどもの様々な困りに寄り添い、支援していくために、組織的な相談体制をより充実させることで、福祉関係機関等との連携をさらに深め、より厚い支援につなげられるというふうに考えております。各学校においては、こどもの成長に関わり、よりよい環境の中で、教育を行えるように最善を尽くすということが私たちの責務ということでもありますけれども、教育諸条件の整備、人的・物的措置への早急な対応等が、これからのこども・子育て支援を考えていく上で、特に重要になるというふうに考えております。以上でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

岡田会長 ありがとうございます。子育てのすごく大事な場の一つとして学校、特に小学校について、いろいろ考えていきたいというふうに思います。それでは続きまして、佐々木委員お願いいたします。

佐々木委員 社会保険労務士の佐々木と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。私、国の機関で研修とかをさせていただいたことがあることと、あと社労士として、実際に企業研修に入って、管理職研修をさせてもらったりなど、労務管理の手伝いをさせていただいています。その経験も踏まえて、ワーク・ライフ・バランスって本当に大切だなと思っています。毎回この会議、溢れる思いが止まらなくて毎回楽しみにさせていただいて、また県の方も一生懸命対応してくださるのが、本当にありがたくて。大分県って素晴らしいなと、本当によかったなといつも思っています。その中で育児って本当に楽しいものって思っていて、自分も成長できるし、こどもの成長も見られるし、こんな楽しいことって本当はないと思うんです。今なんかネガティブキャンペーンみたいにネガティブ情報がめちゃめちゃ発信されているんですけど、いいところもね、いっぱい発信させてもらったらいいなと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

岡田会長 ありがとうございます。ワーク・ライフ・バランスとかいろいろ引続き考えていきたいと思っています。それでは佐藤委員お願いいたします。

佐藤委員 佐藤と申します。未来応援コミュニティ b-room ぶる一むの代表をしております。私たちは高校生を対象としたボランティア活動ですとか、高校生向けの体験活動、高校生向けの講座を企画して運営しております。私もこどもを3人育てておまして、一番下の子が今高校生です。自分の子育てを通じて感じてきたことを今の活動に生かしております。私は53ページに意見を掲載させていただいております。高校生たちは地域の中で輝けるような存在であってほしいと、私は思っています。様々な体験を通して、高校生を地域で輝かせるお手伝いをさせてもらっておりますが、これからの子育て支援といたしまして、私もたくさん県の方から支援をしていただいて子育てを行っているところなんですけれども、やっぱり心を育む支援といったことを一つ提案させていただいて

おります。今後の子育ては、高校生たちが、例えば家庭を持つ想像をして、自分が子育てをしたときにはどんなふうな家庭が持てるのだろうか。また、先ほどパパの子育てというふうに出ていましたが、もし自分が子育てをしているときに、育児休暇を取るんだったらどんな形で取得するのだろうか、そういったことを具体的に想像できるような、高校生の体験と、そしてそういう教育と支援が大事なんじゃないかなと思っております。なぜ高校生かという、やっぱりこどもとしての最後のくくりが高校生なのではないかなと考えているのが、私たちの活動の一つの中心となっております。最後に社会に出る前に、こどもたちに伝えたいことを私たち地域の大人から伝えていける場を、支援していきたいというふうに考えております。2年間の任期どうぞよろしくお願いいたします。

岡田会長 ありがとうございます。高校生の居場所、そして高校生がその上の世代の方と交流したり繋がるって、すごいことだなと思って。また今度詳しく教えてください。それでは続きまして首藤委員お願いいたします。

首藤委員 NPO法人しげまさ子ども食堂ーげんき広場ーの事務局長をしております首藤と申します。よろしくお願いいたします。2016年に子ども食堂を始めまして、無料学習支援、プレーパークそれと見守り強化で、お弁当の配達、それと県民活動支援室のモデル事業で、舞台パフォーマンスとプレゼンテーションの指導と発表会の開催。それと今、日本財団さんの支援をいただきながら、第3の居場所として元気広場というのを開催しております。それとは別に、こどもの貧困対策支援として年に1回の「かたろうえ大分」というイベントを、県内各地を回りながら、今年も中津市で開けないかと、今準備しているところです。私はこの質問の内容にも書かせていただいたんですけど、いろいろこどもに関わって、今年で8年目になりますけれども、今年からは、よりこどもの意見を聞いていこうと思っています。大人がこどものためにと思って行っていることに、ギャップはないか、そこにもっと踏み込んでいきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

岡田会長 ありがとうございます。それでは祖父江委員お願いいたします。

祖父江委員 臼杵市の地域子育て支援拠点よいこのへやより参りました。祖父江と申します。この会議は今期で2期目になります。またよろしくお願いいたします。私の意見は34ページの方に記載してございます。やはり、私がおります地域子育て支援拠点っていうのは、乳幼児期の親御さんが集まる場所なんですけれども、もうどうにもならないような状況になってからでは、支援がなかなか難しいってことがあります。ですので、今力を入れているのは、両親学級を妊娠期からするという事です。私が運営しております、地域子育て支援拠点はシルバー人材センターが市より業務委託を受けて、行っている場所です。全国的にも珍しいですし、大分県では1ヶ所だけだというふうに認識をしております。現在16名のシルバーのスタッフがおりまして、最高齢は82歳です。高齢者の生きがいも生み出しておりますし、世代交流もできておりますし、理想的な場所ではないかなというふうに思っています。うちの拠点の売りは、予約なしでいつでも預かりができるっていうことです。それがどうして可能かと言いますと、やはりそれはスタッフがシルバー世代だからではないかなというふうに感じています。うちのスタッフは、例えば学校の教職を退職して、学校現場にはちょっと戻るエネルギーはないけれども、やっぱりこどものために何かをしたいという思いがある方だったり、あと全く違う仕事をしていて、子育てが終わったので、でもやっぱりこどもに関わりたいたいというふうに児童福祉にすごく熱い思いを持ったスタッフがたくさんいます。そういうスタッフが多いので、預かり依頼があったとしても、いいよっていうふうに急に対応できる。人数もいますし、あと支援員研修を受けたり、資質向上のための研修も積極的に受講しているスタッフだからこそ、安定した支援ができるのではないかなというふうに思っています。加えて、やっぱりこれからの子育て支援が必要だと思うのは、誰かのために何かができる時間的・体力的・金銭的、そして思いがある方の発掘育成と、より利用しやすいサービスの提供ではないかなというふうに思っております。ありがとうございます。

岡田会長 ありがとうございます。私も子育てが終わりまして、なかなか声がそんなにかからないので、ぜひ子育て支援に関わりたいたいという人、潜在的にはたくさんいるんじゃないかなというふうに思います。それをつなぐ取組ができるといいなと思います。それでは高橋委員お願いいたします。

高橋委員 大分県助産師会会長の高橋と申します。私も2期目になります。どうぞよろしく申し上げます。大分県助産師会は、助産師さんっていうと病院でお産を取り上げるところにほとんどいるっていうようなイメージがとても強いと思うんですけど、実は地域で活躍してる助産師もたくさんいます。資料の方としては35ページのところに大分県助産師会のご紹介をさせていただきました。それからお手元の助産師マップで、地域で活躍している助産師の情報と、大分市羽屋の一軒家で子育て・女性支援センターとして活動している内容について、今後教室等の取組をたくさん行おうと計画を立てましたので、計画内容をちょっとご紹介させていただいています。もしよろしければお声掛けしていただいて、少しでも困っているお母さんなどが、参加できたり、コミュニティの場所になったらいいのかなと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。助産師は勤務で病院で働いている助産師もいるんですけど、開業している助産師さんでお産ができる助産所は大分県に2か所あります。それ以外は保健指導部ということで、生まれた前後とかの家庭での訪問という形をさせていただいて、より細かくお母さんたちのニーズに寄り添い、不安のないような子育てのための支援ができればいいのかなと思っています。まず結婚したい・産みたいという気持ちになり、先ほど佐々木委員が言われたように本当に子育ては楽しいっていうようなところとか、やっぱり命ってすごいんだぞっていうようなもの、すごい確率で自分たちの命があるんだぞっていうようなことを、理解できるような場所をたくさんお伝えできればいいなと思いますので、今回出前講座などに関しましても、いろいろな要望がありましたらいろいろな形で、対応できると思いますので、どうぞ活用していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

岡田会長 ありがとうございます。この支援センターでこんなにたくさんのお取組をされていることを初めて勉強しました。そういう意味では、ぜひ知ってもらってたくさん利用していただけると良いんだろうというふうに思いました。では続きまして立山代理人お願いいたします。

立山代理人 皆さんこんにちは。大分県私立幼稚園連合会の会長 土居が、本日所用により欠席です。代理として副会長を務めております立山と申します。代理出席ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。私は個人的なことを言いますと、20年以上保育所、幼稚園、認定こども園の経営に携わっております。その中で、東京都、愛知県名古屋市、兵庫県、福岡県でも、こどもの施設の経営をしているんですけども、今日ここに来るにあたって、大分県において何が一番現実的に可能かとか、財政力の問題も相当大きいと思うので、東京都のようにやっってください、なんてのは到底無理な話なんですけども、一番参考になるのは兵庫県明石市の泉・元市長。強いことを言う時もありましたけども、彼が行った施策ってのは非常に実は優秀でして。すごくこどもにやさしい施策を、たくさんの人に、30万人ぐらいの市ですけども、行っていました。その中でも突出しているのはやっぱり保育人材の確保です。その支援を非常に熱心にやっただいております。市長が代わった後も引き続きやってくれていまして。保育人材が集まることによって、施設も充実します。こども・子育てのいろんな活動をされている方たちもどんどん充実した活動ができます。そうすると、人が増えてきて、労働人口が増えてきて好循環に回っていくというようなサイクルを生み出して、明石市では今ずっと人口増が続いているんです。神戸市っていうすごく大きな都市が隣にあるんですけども、そこからの人口流入も非常に多いです。こういったようなサイクルを作っただければ非常に助かるなというふうに思います。代理です。多分1回きりになるかもしれませんが、本当に今日はよろしく申し上げます。

岡田会長 ありがとうございます。子育てに関わる人材をどう育成するのかっていう問題は常に本質的な部分になるんだろうと思います。それでは西岡委員お願いいたします。

西岡委員 こんにちは。大分大学福祉健康科学部1年の西岡優です。私は今年入学したんですけど、福祉に興味というか入ろうと思ったのは、自分自身が地域、習い事とかではなく、市民ミュージカルだったり、町内子ども会のソフトボールであったりっていうことを通じて、いろんな成長をさせてもらったので、そういった、習い事とかではなく、その地域の人に育ててもらったという実感がすごく自分の中であって、それについての理解を深めたいと思い、福祉健康科学部に入りました。私は日田市出身で、こどもの施策についていろいろ教えてもらうことはあるんですけども、そういったときに、県が取組まれていることと、日田市が取組んでいることに、差っていうか、県がすごく進んだことをしているけれども、市では表面的なことしかしてないっていうところも感じたりすることがあって。例えば、市では、新しくこども支援拠点っていうのを作ろうとしているんですけども、それができるのにすごく時間がかかっていたり、放課後児童クラブとかの対応が、保護者の方で運営しているの、すごく負担がかかっていたりとかっていうことがあって、私はそこにちょっと県内の中でも地域差があるのではないかっていうところを感じています。また、自分は市民ミュージカルであったりとか、町内子ども会のソフトボールを経験させてもらって、県選抜まで行かせてもらったんですけど、そういった地域でもそこまでいけるんだよっていうのが、自分の中ではすごくあるんですけど。それが今、自分の身近にいる中学生とかを見ると、何かエネルギーを持って余しているというのをすごく感じて、公園とかでグループを作って、近所の人からしたら、何か悪い目っていうか、迷惑行為だっって見られることでも、実際に話をしてみるとすごくいい子たちばかりで、もっとそういった子どもたちのエネルギーが使われるような居場所づくりを、一緒に考えていきたいなと思います。全然、知識とかはないですけども自分の経験を踏まえていろいろ参加させていただきたいです。よろしくお願ひします。

岡田会長 はいありがとうございます。今どきの若い学生さんから地域に育ててもらったって発言があるというのは、予想外でしたけれども、そういうのもあるということを中心に思いながら、いろいろご提案いただければと思います。ありがとうございます。それでは西嶋委員お願ひいたします。

西嶋委員 こんにちは。私はNPO法人チャリティーサンタ大分支部の代表をしております西嶋と申します。チャリティーサンタ自体は2008年から東京で始まって今全国に33都道府県にあるような大きな団体なんですけれども、大分では2021年から活動を始めて今年が3年目になります。資料54ページに大体の活動について、簡単にまとめたものは書いてありますけれども、クリスマスイブの夜にサンタクロースに扮したボランティアがご家庭に訪問して、子どもたちに特別な思い出を届けるという活動しております。まだ短い活動の中でも、ご家庭からのご意見としてクリスマスをお祝いすることができない、ケーキを買うことができない、ランドセルも買うことができないというような、驚くような意見をいただくこともありまして、私たちの活動の中で、子どもたちとたくさん触れ合って、訪問したことで親以外の大人が見守ってくれているっていうこととか、地域の人が見守ってくれているっていう温もりも一緒に届けられたらいいなという思いを持って活動しております。私たちの団体は10代から70代まで幅広い人が参加しておりまして、世代を超えた交流とか地域を超えた交流っていうのも、生み出せるのではないかというふうに思っております。私のプライベートなことを言いますと今小学校4年生と中学校1年生のこどもがおりまして、私も広島県出身、主人も大阪府出身、仕事の都合で大分にまいりまして今年で10年目になります。私も仕事をしている関係で、一時保育を使ってみたり病児保育を使ってみたりベビーシッターを使ってみたりとか、ありとあらゆるサービスを使ってここまで子育てをして、まだまだ子育てが続いていくわけなんですけれども。今回のこの委員に選出されたことで、そういった経験も含めてたくさんお話ができたかと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。それから12月24日、空いている方がいらっしゃいましたらサンタクロースを募集しておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

岡田会長 ありがとうございます。この会議で巻き込むっていうのもすごくいいと思います。それでは引田委員お願いいたします。

引田委員 こんにちは。児童養護施設清浄園で、女子児童が7人生活しているユニットでユニットリーダーをさせてもらっています引田沙耶香です。私は3月に、2人の児童が社会に出るための退所に携わったんですけど、ちょっとやっぱり児童養護で育つと、いろんな大人が関わってくれて、いろんな人が意見を聞いてくれる場で育つ場合と比べて、なかなか自分の意見を言ったりとか、自分の力で行動するっていうのにちょっと乏しくなってしまうと、退所後もかなり苦労している姿が見られています。児童養護施設を18歳で退所するっていうところが22歳ぐらいまで引き上げになったんですけど、私自身もちょっとケースワーカーと揉めて、この子はまだ措置延長するべきだっていう話をしたんですけど、社会に就職する子はそういう対象にならないと言われて退所した子が1人います。親御さんもないし、今、グループホームで生活をしているんですけど、かなり苦労していて、児童養護施設を退所した後のケアっていうのはすごく大事だなというふうに感じています。私自身も里親家庭で育ててもらって、今、児童養護施設で働かせてもらっているんですけど、こどもたちの気持ちもわかるし、退所後の不安さっていうのがわかるので、出た後のケアとかを充実させていきたいなと思っています。行政とかあまり詳しくないんですけど、当事者としての意見とかも言えたらいいなと思っています。よろしくをお願いします。

岡田会長 ありがとうございます。児童養護施設におられる間のことも対応もそうですけど、そこから社会の中に参加していくのをどううまく支援するかということもすごく重要な視点だと思いました。ありがとうございます。それでは姫野委員、お願いいたします。

姫野委員 こんにちは。私は、大分県民生委員児童委員協議会、主任児童委員連絡会の姫野と申します。先ほど西岡委員さんがおっしゃった、地域の人に育ててもらったという言葉が、私の立場からすると、もう一番励まされる、本当に報われる言葉でした。その言葉を今日聞いただけでも私は何かすごくよかったなという思いでおります。私どもはこどもを地域で見守っていくということで、地域、学校、それから子ども家庭支援センター、保健所などと連携して活動しています。大分市では、今子育てサロンを開きまして、子育て家庭と地域の人たちが集える場づくりということで取組んでおまして。今35ヶ所ぐらいが大分市にはあります。大分県全体で見ますと、出生数の減少からやっぱり廃止、なくなってしまう子育てサロンも非常に多いんですが、大分市ではまだまだ活発に活動ができていようなところなんです。この子育てサロンというのは、やはり地域のこどもたちや家庭の実情を把握する上で欠かせない場となっているなと思います。保健師さんとの連携というのが非常に不可欠です。ですので、いろいろな支援のいる家庭、そういったこどもさんについても情報共有しながら、活動ができていようところがございます。これから、やはり、1人でもそういったところに出かけてみたいという親子がいれば、いつもウェルカムということで、開けておく場が必要ではないかなというふうに考えております。地域の方々と信頼関係を築いていって、そういった関係を深めていきたいなと思っております。また今年度も引き続き、皆さんと一緒に学ばせていただきたいなと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

岡田会長 ありがとうございます。地域の繋がりが薄れる中で、あるいは個人情報保護というようなこともあって、昔から比べて随分難しくなっていると思うんですけども何とかやっぱり繋がる努力を、みんなで作っていかないといけないのだろうと思います。それでは藤田委員お願いいたします。

藤田委員 大分県立芸術文化短期大学の情報コミュニケーション学科で心理学を教えております藤田と申します。専門は発達心理学です。発達心理学の方で学生にも、子育て支援等についても話をしております。私、事前に意見を言ったんですけど載っていませんで、もしかしてまずいこと書いてしまったのかなと思うんですけど。私はとにかく保育園の待機児童の解消を。今年度もあまり入

っていなかったんですけども、ぜひ力を入れて何とかしてやっていただきたいというのがもう一番の希望です。卒業生もよく遊びに来ますが、もう3年連続入れなかったという声も聞いております。私、今毎日、孫の保育園のお迎えに行っておりますけれども、2年前、娘が帰ってきて保育園に入れませんでした。東京に住んでたんですけども、東京でももちろん2回落ちました。もう仕事辞めなければとなって、大分ではいつも待機児童ゼロという資料が出ています。それでもしかしたら大分に来れば、子育てしながら働けるんじゃないかということで、夫の方も東京出身ですけど2人で転職して、大分に戻ってきたんです。でも2年前に保育園に申し込みましたが一次では落ちました。二次でも落ちて、そのあとたまたま空きがあったのかもしれないかもしれませんが、ぎりぎり入れました。それで、やっと何とかなっております。市の子育て支援課に相談に行きましたら、まず入れませんと言われました。娘は、700人待っているって言われました。このゼロっていう数字が、どういうふうにして出てきているのかというのをやっぱり、もう少し把握していただきたいなというふうに思います。あと、県外から来てますねと、東京から来るのであればポイントが低いと言われました。毎日娘がポイントを眺めながら私は何点だというふうに点数を一生懸命に計算するんです。大分県はやっぱり人に来て欲しいのではないかなと思うんです。人口を増やすべきだと思うんです。息子も、東京の人だけど大分に来ていいと言ってくれてるのに、点が低いと言われて、私もええって思いました。育休を延長してもらえませんか。市の人に言われたんですけども。娘は医療従事者なんです。職場からは、とにかく早く復帰して欲しいというか、働いて欲しい。去年も仕事で防護服を毎日着て必死にやってきたんです。もちろん仕事内容で点数化できませんけどもそれでも入れなかった。医療従事者でも2年前に入れなかったんですよ。うちの人に見てもらえませんかと言われて、私も仕事しております。なのでおばあちゃんも見れないという状況で、でも結局入れないって決まって、私はもう自分が休職するしかないという覚悟をしました。3月に自分が休職するつもりで、市のこういう会議も参加しておりましたけど全部辞めさせていただいて、でも何とかぎりぎり5月に入れていただいて今に至っているという状況です。やっぱり待機児童の実態をきちんと公表していただいて、解消もまず多角的にさせていただいて本当ありがたいと思ってるんですけども。そこを何とかしていただきたいというのが第1希望です。お願いします。

岡田会長 ありがとうございます。全体の数字では割と安心していたんですけど、具体的な事例を聞かせていただいて、大変勉強になりました。今後また検討していきたいと思えます。続きまして藤本委員お願いいたします。

藤本委員 こんにちは。大分県社会福祉協議会の事務局長 藤本と申します。どうぞよろしく願いいたします。県社協の方では活動の目標といたしまして、誰もがともに支え合いながら、人と人との繋がりを感じ、安心して暮らせる地域を作る。地域共生社会を促進していくというのを目標に、いろいろな活動を進めております。そういった社会というのが誰もが役割を持って、お互いに存在を認め合って、支えられたり支えあったり、そういった中で、人と人が繋がりを持って生活するような地域ができるようにということで活動しております。そういった活動の中で、現在強化しているのが、こども食堂の取組であります。本日もこども食堂を実際に運営している方が委員として参加しております。そういった方々の開設の相談とか、運営の支援、そういったものを行っているのが今の県社協の活動であります。こども食堂の中で、こどもたちが居場所として役割を持っているような活動ができるようになる。これをこどもだけに限らず、様々な人が気軽に立ち寄って交流することができる。多世代の交流食堂、そういったものになればいいなということで取組んでいるところであります。そういった中でこども、お年寄り、障がいを持った方々などが一堂に会して、いろいろな見守りができるような風土、そういったものができていければいいかなと感じているところであります。どうぞよろしく願いいたします。

岡田会長 ありがとうございます。事前の意見に書いていただいた、こどもたちが居場所・役割を持てることが、すごく大事だなと思って。役割をちゃんとこどもたちも持てる。お客さんで、やってもらうだけじゃなくてこどもたちが関わるってこの辺も何か深めていく必要があるかなと思いが

ら読んでおりました。それでは細井委員お願いいたします。

細井委員 皆さんはじめまして。豊後大野市で、スクールソーシャルワーカーをしております、細井と申します。豊後大野市でのスクールソーシャルワーカーの勤務をし始めたのは4月からなんです、これまで豊後大野市外の他市、それから県立高校でスクールソーシャルワーカーをしております、今年で10年目になります。スクールソーシャルワーカーとして仕事をしていく中で、不登校、児童虐待、貧困、いじめ、家庭環境の問題、様々な問題が子どもたちの周りには溢れている。多くが、子どもが原因というよりは、大人の責任の中で、そうせざるを得ない子どもたちがいるということを私は学ばせていただいたし、子どもたちの支援に当たらせていただいております。また、そういった子どもさんたちを支援していく場面で、学校だけではなかなか支援が難しい。やはり事前意見にも書かせていただいておりますが、どんな課題においても、多職種連携ということがラストだなどというふうに思っております。もう教育や児童福祉だけではなくて、高齢者、障がい者、それから生活保護支援といった分野も含め、多くの方々のまなざしによって、子どもが救える。また、子どもを育てている保護者の方々、本当に必死で育てています。周りから見たら、ちょっとどうなのかなって言われるような方でも、もう本当に持てる力で一生懸命働いて一生懸命子育てしている状況がある。ただ、支援の手がない。助けてって言うことができない方が大変いらっしゃるということを感じております。そういった方の支援を、もういろんな方の力を借りてやっていくってことがとても大切だと思っております。この機会を借りて、いろんな出会いの場にして、経験を積みさせていただきながら、一緒に考えさせていただければと思います。どうぞ2年間よろしくお願いいたします。

岡田会長 ありがとうございます。いろんな立場の人がうまく繋がるっていう具体策を、ぜひ考えていけるといいなと思います。それでは続きまして本室委員お願いいたします。

本室委員 「大分のママ集まれ！」という団体を運営しております。本室と申します。大分のママ集まれ！は2020年の4月にコロナ禍で孤立したお母さんたちのための居場所として、まずはオンラインで作りました。今会員数が大分県内に600名ほどおりまして、昨年7月に団体を運営するための合同会社 co-e connect という名前で設立いたしました。私自身も子育てしている時、今、小学校6年生、4年生、2年生の子どもがいるんですけども、子育てを一生懸命、もっと子どもが小さくて一生懸命している時、子どもや母親へサポートとか、使えるサービスってあんまりないだろうと思っていました。でも、子どもが少し落ち着いて、周りを見渡したりですとか、県の方とか、いろんな方のお話を伺うと、実はたくさんサービスやサポートがあって、でも、先ほど藤田委員が仰ったみたいに、お母さんたちの実感とちょっとギャップがあるんだなっていうことを今、とても感じているところです。ですから、それを具体的にどうしていったらいいかは、これから、今も考えているところなんですけども、今回県民会議の委員に任命していただいたことで、お母さんたちの意見を会議に反映できるように努めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

岡田会長 ありがとうございます。ぜひその経験、いろんな声をまたここにも反映させていただければと思います。それでは続きまして矢野委員お願いいたします。

矢野委員 こんにちは。NPO法人おおいた子ども支援ネットの代表をしております矢野と申します。私たちの法人は、どちらかというと支援ニーズが非常に高い子どもさん、そして若者、ご家族のサポートを、一番小さいころは未就学期の児童発達支援センターから、成人期の引きこもりの相談等までを事業として実施している法人であります。非常に支援ニーズの高い、信号機に例えると、赤よりの黄色から、赤みtainな感じで、そういったご家族や子ども、若者をサポートしています。そのサポートをする現場からやっぱり見えてくるのは、突然赤信号になる子どもや若者ってほぼいんですよね。その困難が非常に地続きで、予防策といえますか、もっともっと手前の、なんでもっと早く出会えなかったのか、そういった子どもや若者にたくさん出会うことがあります。ですから、

私の中では事前意見に書いておりますけども、ずっと手前で言うと、行政的に言うと、母子保健と児童福祉のみならず、制度の切れ目とかいろいろライフコースがチェンジするところ、そういった形の部分をどうやったら手厚くサポートできるのかというようなこととか、市町村というふうなことを書いてますけども、やっぱり子どもにとっての最大のプラットフォームは義務教育であるんじゃないかと私たちは思っております。なので、それが市町村行政にある以上、市町村の教育システムと福祉のシステムがしっかり協働できるような、そういったイメージはどうやってつくれるのか、そういったことを大事にしながら、この県民会議で、日頃私たちが出会わない地域の中で多様な活動をしてらっしゃる皆様とご縁をいただいて、たくさん学びをいただけたらなというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

岡田会長 ありがとうございます。具体的な困りに直面されているお子さんとたくさん関わられているということで、また具体的ないろんな事例とか教えていただければと思います。続きまして内藤代理人。どうぞよろしくお願いいたします。

内藤代理人 おおいたパパクラブの内藤達也と申します。本日山口代表の代理という形で出席をさせていただきます。私は2年前に加入したただのメンバーではあるんですけども、県の取組にはご縁がありまして、昨年末、NPOを推進するYouTubeで、代表の推薦を受けて出演をさせていただきます。おおいたパパ・内藤で検索すると出てくると思っています。おおいたパパクラブはもともと県の取組で発足しまして、そのあと有志のメンバーが引継いで活動を続けているような任意団体となっております。現在約60名ほどが在籍しております。私自身6歳の長女と4歳の次女の父親として、パパクラブに入っているというどちらかというとなんかこう、パパの集まりとか、なんかこうイクメンとかって言われることが多いんですけども。意識高い系の集まりとかっていうつもりは全くなくて、資料にも出てるように、どちらかというコミュニティだとか、居場所っていう、職場でも家庭でもない。サードプレイスを求めているパターンがすごく多いのかなというふうに感じております。ちょっと今日は代理という形にはなるんですけども、今後山口代表も通して、パパクラブの活動として課題に感じてる部分もありますし、また私自身も1人の父親として、あとはもうパパのリアルな声っていうのを、こうした場でお届けできたらいいなと思っております。よろしくお願いいたします。

岡田会長 ありがとうございます。パパクラブで繋がれているパパたちも大事だし、もしかしたら繋がれるチャンスがあるんですけども、ちょっとなかなかそこに入れたいパパもいるんだろうと思いますので。その辺のことも考えていけるといいかなと思います。では続きまして山下委員お願いいたします。

山下委員 山下心優と申します。私は大分県立芸術文化短期大学に在学しております。私は意見として提示したように、子どもの成長や子育てにとって、県と地域が連携した空間づくりが必要だと考えております。その一つが公園だと私は考えております。しかし、現在、近隣の苦情によって公園を閉鎖せざるをえないという現状が続いております。私は日出町で暮らしており、実際に近くの公園は、近隣の方から子どもの声がうるさいという苦情が入ってしまい、学校側から子どもたちにちょっと遊ぶのを控えなさいと言われていた状態となっております。そういった子どもが伸び伸びと過ごす空間が減少してしまうことで、子どもの活発さが減っていく状態となってしまったと考えております。その中で、私たちが今できることを、この会を通じて発信して、実践していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

岡田会長 ありがとうございます。報道でも長野市でしたっけね、住民の苦情によって公園がもう無くなってしまうみたいな報道ありましたし、大分でもそのようなことがあるんだということですので考えていかないといけないと思います。子どもたちがこけた時に手が突けない話とかありますし、今日は大学生委員が2人来ていただけてますけれども、例えば大学生が関わってくれればとす

く心強いなって思いますので。子育てにあまり関わってなかった中高大学生あたりがぜひいろいろ関わっていただけるように、何か考えていけるといいかなと思います。よろしくお願いたします。それでは吉田委員お願いいたします。

吉田委員 昨年度からの続きで、2期目になります。どうぞよろしくお願いたします。社会的養育連絡協議会っていうのは児童養護施設と里親、それからファミリーホームが一緒になって、連絡会、研修等も一緒に企画をするような、そういういろいろとこどもたちを取り巻く支援・サービスっていうところが大きかったかなと思いますけれども、こどもたちの最終的な居場所っていうところで、いろいろな事情で家庭にはいられない、生活できないお子さんの方をお預かりしているのが、児童養護施設、里親、そしてファミリーホームということになります。今私たち社会的養育連絡会だけではないですけども社会的養育の現場では、ただ措置されたこどもたちだけではなく、地域のお子様の預かりのショートステイ、トワイライトステイっていうのは、基本的にはこういう預かり事業ができる施設等で行っておりますし、それぞれの施設がほとんどそういう機能も一緒に持っています。その他にも、多機能化っていうふうに言われているんですけども、うちも児童館であったり学童クラブであったり、いろんな社会福祉と連携した活動、地域のための活動っていうこともやっております。そして、大分県、各市で行っております訪問事業であったり、もう少し私達の方も出ていくっていうところでアウトリーチ型の事業の方にも、持っている資源を生かしながら活用しながらということで、今動き出しているところでもあります。そんな中で、昨年からいろいろお話を伺いながら、いろんな方の言葉の中に出てきています、繋がっていくことの大事さ。ここに至る前に、どうにかできないのかなっていうところでショートステイ、トワイライトステイももちろんですけども、この子育て支援っていうところ。そして、もう一つは、ちょっと最近感じているのが、おおい子ども・子育て応援プラン、何度か読ませていただいて、すごくたくさんサービスが充実しています。ただこれらの認知度、周知度っていういいですか、どれだけの方たちが知っているのかなっていうところは、せっかくこれだけのものがあるのに知らないっていう方が結構いらっしやるのではないかなっていうふうに思います。ショートステイ等もそうですけれども、いらっしやるお母さんたちが帰り際に、こういうのがあったら利用したかった、もっと利用したいっていう声もよくいただくんですけども、せっかくこうあっても、活用ができないのであればもったいないなっていうところで、知らせていくっていうことをどういうふうにしていったらいいのかなっていうこと。そして、今度はせっかくこういったものがありますので、私の方の意見として書かせていただいたのは、これが今度は横にこう繋がって行ってですね。先ほど教育と福祉の連携っていうことおっしゃっていただいたんですけども、次のステップとして繋がっていくっていうことができたなら、もっとこどもたちの、そして家庭の支援に繋がっていくかなっていうふうに思いました。どうぞよろしくお願いたします。

岡田会長 ありがとうございます。いろいろされてるんだけど、実はそれを知らなかったって声もよく聞くところなので、どうやって知ってもらうか、気軽に使ってもらおうかというところを考える必要があるんだろうと思います。僕なんかだとそれをやっぱり口コミがねって思ってしまうんです。口コミだけだとやっぱり今なかなか繋がりにくいので、ネットも含めて、どうやって情報を広げて、ネット上の支援体制を作っていくかってことなのかなというふうに思います。ありがとうございます。それでは米倉委員お願いいたします。

米倉委員 大分県公認心理師協会の理事をしております米倉と申します。今年度からになります。よろしくお願いたします。当協会は、公認心理師と臨床心理士によって構成する職能団体で、保健医療とか福祉、教育、産業労働、司法犯罪の分野で活動しています。私自身は、教育分野を中心にスクールカウンセラーとして勤務しておりますので、教育分野スクールカウンセラーとして勤務する中で、日頃感じていることを今日はお話させていただきたいと思います。事前の課題について、皆さんがたくさん書かれているのを見て、とても熱量を感じてちょっと、一行しか書いてない自分自身が恥ずかしくなったんですけども。コロナ禍の影響で、私自身学校で感じてるのは、ぎりぎりに

頑張っていた子どもたちが、頑張れなくなっていくのではないかっていうふうを感じることも多かったです。相談数が増えているということもありますし、子どもの支援だけでは、解決に向かえない。ご家族もとても苦勞をされているような状況っていうものを目にするが増えまして、子どもの居場所であったりとか、家族をいかに支援していくかっていうところを、私たち自身も学びながら、いろんなネットワークを作りながら、関わっていかなければならないなっていうふうに思っていたところです。それから、ここ数年、小1プロブレムといいますか、小学校低学年での暴力行為であるとか、不適応っていうのが目立つようになってきています。そういったところに幼保と小学校の繋がりとか、中1ギャップって言われていることに関しては小学校から中学校への繋がり、皆さん努力されている経緯があるんですけども、どうしても幼保等から小学校になると管轄されている部署がこれまで違ったこともあって、なかなか繋がりが十分と言えない状況があります。それまで保健師さんが丁寧に関わってきた部分が一旦途切れてしまうようなところがあったり、何か家族状況が見えづらい状況であるからこそ、その繋がりを大事にしていくことができればいいなっていうふうに思っているところがあります。それから、最近、コロナ禍もあって自殺者数の増加というものが言われていて、特に高校生ですが。令和3年度は女子高校生、令和4年度は男子高校生の自殺者数の増加っていうことが挙げられているんですけども、その中でSOSを出す力を育てようと言われていたんですけども、SOSを出すことが難しい場合にどれだけそれを拾っていくかであったり、保護者になられた時になかなか支援を求められないっていうのも、SOSを出しても、出したことで受けとめていただけたとか何とかなれたっていう体験が、少なかったのではないかって思うところもあります。せめて今学校現場にいる子どもたちが出すSOSには応えていき、この先、少しでも出してよかったと思えるような体験をしていただけたらなっていうふうに、考えながら関わっているんですけども、何かそういった面で、何かできることがあるといいなっていうふうに思っています。私自身初めての体験ですので、わからないことが多いのですが皆様方からお知恵を借りながら、日常の活動につなげていけるものを、また考えていけたらよいなと思っています。よろしくをお願いします。

岡田会長 ありがとうございます。SOSを受け止められるところがあるのがまず大事ですけど、言えないということも含めて考えるときに、どうやってそのSOSを受けとめやすい、感じ取れるような人が周りにいるかどうかっていうことも含めて、考えていく必要があるんだろうと思います。では最後にちょっと相澤副会長と私がしゃべらせていただこうと思います。合わせて2時間ぐらいの研修ができそうな資料を出していただいたんで、少しちょっと長めにお時間をいただいて、話していただこうと思います。お願いします。

相澤副会長 相澤でございます。ちょっと情報提供と思って資料を作ってきました。小児期の逆境体験と保護・補償的体験ということですけど。総合的な評価指標のレーダーチャートを見て、やっぱり自分にはよいところがあると思うと答えた子どもの割合が非常に少ないと。これ自己肯定感が少ないってのは、とてもやっぱり問題だよなど。これをどうしてつらいのかなっていうことをちょっと考えるのと、それから虐待の相談件数が1,000件を超えたと。こういった小児期逆境体験はどんなふうに子どもたちに影響を与えてしまうのかと、さらにそういったことに対してどういうふうにアプローチしたらいいかっていうことについてちょっとお話をさせていただきたいと思います。5分ぐらいいただければと思います。逆境的小児期体験ですけど、39ページですけど10項目です。虐待5項目とDV、家庭の中に薬物乱用者、精神疾患、親の別居や離婚、それから家庭に収監された人がいるという10項目です。詳しくは40ページを見ていただければと思います。この逆境的体験のスコアが高くなるほど、心身の健康の悪化と問題行動の発達的には悪い結果の種類も数多くなってくると。42ページですけども、ACE (Adverse Childhood Experience: 小児期逆境体験) の数の健康リスクの行動との関連、喫煙にしてもアルコール依存にしても違法薬物の使用にしても、逆境的体験の数が多いと高まりますよと。長期的影響性ですけども、43ページですが、累積数の増加に伴って、成人期の心身の健康状態の出現率が比例して上昇すると。実際にがんの出現率とか、アルコール依存とか、先ほどの自殺じゃないですけど自殺企図が12.2倍です。そういうふうが高ま

ってきます。精神的な問題も、DV加害のリスクが 5.5 倍です。こんなふうに小児期逆境体験が成人期に影響を及ぼしていくと。これは累積数が高いほどそうなる。例えばその 44 ページでございますけども、神経発達の不全とか小児期逆境体験がありますと、寿命を縮めるのではないかと推論されていると。6 項目以上あると、20 年ぐらい寿命が縮まるというデータもあります。45 ページですが、今まではどちらかという従来介入としては波線の上の部分でしたけど、これからはやはり小児期逆境体験に基づく介入が、特に生体的機能障害そのものへの介入が必要だということになってきます。どんなふうに介入していけばいいのかっていうと 46 ページです。小児期逆境体験を持つ子どもと青年の適応を促進する取組ということで、PACEs (Protective and Compensatory Experiences : 保護・補償的体験) と言われているわけです。保護・補償的体験をどう積み上げているかと。6 歳から 18 歳で 50 項目ありますけど。47 ページにそれが出てまいります。家庭内での体験ですけど、誰かに無条件に愛されること。これはどういうことを意味しているかというのと、Doing じゃなくて Being をきちっと保障していきましょと。するとかしないとかできるとかできないじゃなくて、生きている存在そのものを認めているという、ですから福祉ですと Well-being ですよね。Being を大事にしていきましょと。そういうことです。十分な食事とか、清潔な安全住居に住んでいるということで規則正しい生活っていうようなことも出てまいります。そして家庭外の体験ですけども、外に信頼できるような大人が 1 人いるとか、親友がいるとか、それから学校に通えているとか。その下ですが、定期的に誰かを援助した体験があるとか。組織的なスポーツクラブ、体育活動に定期的な参加体験があること。ボーイスカウトとかガールスカウトの市民的・社会的活動、ボランティア、先ほど社会で育ててもらったって話がありましたけど、活発な社会参加です。1 人またはグループで行う熱中できる趣味と。こういったものが、10 項目ですけど、こういったものやっっていくことによって、肯定的な感情を生み出していき、つまり自己肯定感を高めていくんだと。つまり、実はこの小児期逆境体験って数が多ければいろんな問題出ますけども、一つか二つある子どもたちは結構いるはずですよ。ということは要するにこういう体験を積み重ねていくことが大事で、まさにユニバーサルアプローチをしていきましょと。個人的居場所である家庭、社会的居場所である学校とか職場、それに先ほど皆さん言ってくださいましたけど、第 3 の居場所をどういうふうに子どもたちに、確保していくかと、こういったことを考えていくのが、とても大切なんではないか、ということでございます。48 ページですけども、肯定的な感情と寿命ってのが出てきます。カトリック修道女の若い頃の日記の内容と、年齢別生存率の関係ですけども、肯定的な感情の記述が多いほど、寿命は伸びるということでございますので、健康寿命日本一にするのであれば、こういった自己肯定感を小さいうちからきちっと育てていくってことはとても大切なんだということでございます。お時間いただきましてありがとうございます。以上でございます。

岡田会長 ありがとうございます。大変勉強になりましたし、これだけ濃い内容を短くまとめていただいて、大変わかりやすく伺いました。もう、今のお話を聞いていたら、何か身近にもこういうことを体験されている子どももいそうだなっていうのを改めて感じました。ですから、やっぱりそういうのに関してちょっと、周りから声を掛けられたり、一緒にやろうっていう呼びかけができたりみたいなことを増やしていかないと。意外と大分県内でもあちこちにこういう経験をして、自己肯定感が持ちにくい環境にいる子どもがいるんだなっていうことは、考えていく必要があるということをおもいました。最後に私が書いたことをちょっとだけしゃべらせていただこうと思うんですが。実は私も子育ては割と熱心にしてきたつもりですが、妻にはちょっと一番大事なときには残業とかで居なかったと言われていたんですけども。子どものことは好きですし、親父クラブに入って 18 年目かな。下の娘がもう 23 歳ですけど、まだ小学校の時のクラブを現役でやっておりますし、関わってきたつもりなんですけれども。このおおい子ども・子育て応援県民会議に来て、すごく多様な子育てがあるんだなっていうのを強く感じました。様々な子育てにおける悩みであったり、困りに直面している事例というのはたくさんあるんだなということで、今のお話であった虐待であったり、それからいろんな発達障がいとか、不登校・引きこもりといった問題、それからヤングケアラーというのもこの会議で初めて教えていただいて、こういうことがあるんだって思いましたし、こ

ども食堂についてもこんなに必要な子どもが多いんだっていうのも、新しい学びだった気がします。私が考えているのは、一つはこういう具体的に困りに直面されている部分に関しては、ぜひ早く支援を考えていかないといけない。その時に、ポイントポイントだけ支援していくとやっぱり何か漏れてしまうので。何か繋がりながら、その取組を繋ぎながらやっていく必要があるかなというのを考えております。それから、もう一つは問題が特に顕在化していない時に、今の何となくやっている子育てに関してもうちょっと楽しめたり、もうちょっと子どもが生き生きしたりというふうな、より積極的な方向にするためにどうしたらいいのかっていうところの取組を、繋がりを増やしたり声や手を出してくれる人を増やしたりっていうところで、考えていく必要があるかなということを考えておりますので、またそのあたり皆さんからご意見いただきながら、この会議で検討していければと思っております。

皆さんのご協力、大変すばらしい協力でまだ3時30分過ぎでございます。下手したらもう残り3分とかになるかなという計算をしていたんですが、自己紹介を含めて1周ご発言いただきましたけれども、今期の第1回の会議でもありますので、この会議の持ち方というふうな部分に関して残り20分弱。会議でどういうことを話したいかということでも結構ですし、それから会議でどういう方式で話すといいのか。30人近くの委員がおられますので、例えば分科会方式、グループワークとかをするみたいなこともあってもいいのかもしれないし、様々な協議の仕方についても、ご意見いただきたいと思っております。それから、今回も事前の意見をいただくということであらかじめちょっとお手を掛けたわけですが、会議に出てその場で思いついたことを言うだけだとなかなかこの会議、意見が表明しきれないので、事前にご意見をいただくというような方式は踏襲しながらやれるといいかなと思っておりますし、またこの会議で話したことをその場で終わらせずに今度、持ち帰って自分でやろうとか、委員で知り合っただけの人とちょっと連携してやってみようかなっていう会議後の活かし方を考えていく必要があると考えております。ということで、今日のところは具体的にもこれをすぐやりましょうってことにはならないかもしれませんが、この会議の持ち方、あるいはここで話し合いたいことなどについて、残りの時間は、自由に手を挙げてご発言をいただければと思います。できれば3分ぐらいでお話いただけるとたくさんの方がしゃべれると思います。では、どなたからでも結構です。こういうことが話したい、あるいはこんなふうに話したいというところでご意見があればお願いいたします。どうぞ遠慮なさらず。西嶋委員お願いいたします。

西嶋委員 皆さんのお話も聞きながらやっぱり繋がってすごい大事だになっていうふうに思ったんですよね。先ほどもお話しましたが、私たちはクリスマスイブに子どもたちに思い出を届ける活動をしています。子どもたちの夢を壊さないっていうのが絶対条件なので、テレビとかラジオとか大きなメディアでの告知ができないので、広報活動がすごく限られてしまうんです。なのでやっぱり皆さんとの繋がりがだったりとか、口コミだったりとか本当に地道に地道にやってきて、支援が必要なご家庭にたくさん行きたいけれど、どうやって届けばいいのか、やっぱり個人情報の問題があったりとか、繋がりがなかなかないので、その辺りがすごい毎年の課題でもあったりします。なので、どうやったらこんなにたくさんいる皆さんと繋がっていいのかっていうのを考えられたらいいなと、それがもっと具体的な形で動き出せるようにしていくにはどうすればいいかを考えていきたいなと思っております。

岡田会長 ありがとうございます。この会議で、例えば事前の意見聴取などで書いていただくというのも一つの方向、やり方だと思うんですが、例えばそういう情報の共有をしたいっていう案件を、いつでも出していただいて、共有できる場みたいなものを整備するとか、その時に例えばこういうふうに共有してもらえると嬉しいみたいなことも付けていただけるともっと積極的な情報共有ができるんじゃないかなと思います。いきなり自分がもう参加しますというところまでいなくてもまずは知っていただくとか、関心を持っていただく上で、なるべく広く情報を流そうみたいなことができるといいかなと。僕もSNSで言うとフェイスブックメインで活動しているんですが、例えば私のフェイスブック仲間に流してよければ、直接かつ活動に参加するかどうかは別として、いいことをしているのは面白いな、元気をもったみたいなのが、多分全国の僕のお友達に流れる

といいなと思ったりしますので、その辺のことも検討したいと思います。はい。ありがとうございます。もうちょっと情報共有の部分をしたと思います。それでは、佐藤委員お願いします。

佐藤委員 先ほど西嶋委員の仰ったことにも少し関わるなと思ったので発言させていただきます。どういうふうに話すかといったところですが、この会議の目的や趣旨は子育て支援に関することとということです、この子育て応援プランについて、事前に意見を求めるという今回のやり方は、すごく良いなというふうに思いました。ジャンルが皆様違いますから、この中で、子育て支援についてということの、事前の情報の提供と、それから西嶋さんが仰ったみたいにそれぞれの団体の困りごとを書けるような欄の2項目あったらいいかなと思いました。それから方式ですが、グループワークは本当にいいなと思ったんですけども、これをジャンルで分けてしまうとせっかくいろんなところの意見が聞ける場所が限られてしまうので、それはもったいないなと思いましたが、ジャンルに関わらず、ランダムで設定されたグループでワークをするっていうのもいいかなというふうに思いました。以上です。

岡田会長 ありがとうございます。私のところ、社会教育学では大体、話す人が多いときには、4～5人ぐらいまでのグループで話すのがいいというふうによく言うんですけども、このメンバーだったら多分濃いのでたくさんしゃべることがあって、少人数にしたい。でも少人数ですと同じ人ばかりになってしまったりすると良くないということも含めて、ちょっとまた検討したいと思うので基本この会議の形式で、事務方の皆さんにも聞いていただきながら意見を述べるというのが、ベースのスタイルにはなると思うんですけども、時々ちょっともっとしゃべろうよみたいなこともできるといいかなと思っています。このメンバーで居酒屋に行ったらすごく盛り上がると思うんですけども、ちょっとこの人数で貸切というのは、今のところコロナ禍関係もあって難しいと思うのですが何かいろいろ繋がりができるといいかなというふうには思っているところです。その方向で検討したいと思います。他にご意見ありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。話し方の方でも結構ですし、こういうテーマは興味あるのでぜひまた次回以降っていうようなことでも結構ですので、お気軽にご発言いただければと思います。では植木委員お願いします。

植木委員 先ほど申されたように会議の持ち方なんですけど、やはり全部とは言いませんが、数回に1度はグループワークの方が、さっき会長も第一声ですかって言われた時になかなかこう、言うことができなかつたので、もっと濃い数名で意見を言いたいなと思います。それから、さっき自己紹介の時にもありましたけれども、やっぱり皆さんお困りをお持ちだと思います。その情報共有も大事だと思うんですが、ぜひ皆さんが取組まれて、自慢できるところ、こういうところがよかったよっていうのを、皆さんで自慢大会のようにしたら、情報共有して自分たちも取り入れられるところがあると思いますので、そういう情報もお伺いしたいと思います。

岡田会長 今全体としては非常に厳しいところも、例えば地域の繋がりが薄くなったりということもありますので、私たちが元気になって繋がれるっていう部分を大事にしてお話をしていきたいというふうに思います。他にございませんでしょうか。佐々木委員お願いします。

佐々木委員 毎回資料を作る時にいつも思ってるのが、この子育てってのはちょっとスパンが長いんですよね。やっぱり0歳から18歳なので、どこに焦点を当てて資料を作ろうかなって毎回思うんですよね。赤ちゃんをターゲットにしているのか、未就学なのか、小学校の高学年から高校生ぐらいまでなのか。それによって私達母親とか全然行動が変わってくるので、どこに焦点を当てよう。毎回ワーク・ライフ・バランスというところでやっぱり私は3歳未満、未就学とか、そこら辺に焦点を当てさせていただいているんですけど。どうでしょう、話すときにそのターゲットインングっていうんですか、どこに焦点を当てるとかいうのをちょっとこう定めてしゃべるとか、何かこう分類分けをしてみるとか。そういうのもあるのかなと思っていますがいかがでしょうか。

岡田会長 分かりました。これ、事務局の方でも検討してもらって。年齢だけでもそういうふうには、例えば3歳以下乳幼児とか、学童期とかっていうふうなので、それだけでもいろいろ分けられると思いますし、具体的な困りの領域に関して、例えば障がいの問題であったりとか虐待の問題であったり、貧困の問題であったりみたいなところでもいろいろ分かれるだろうと思います。全部はなかなかできないかもしれませんが、なるべくそういうので、焦点化してこういう議論を、狭いところであるという方式もちょっと取り入れないと、いつも何か話があっちこち飛ぶ傾向がどうしてもありますので、それもちょうと考えて、その会によってはかなり限定して、集中して議論をするというようなことも検討したいというふうに思います。ありがとうございます。他いかがでしょうか。もうどんな話でも結構です。では吉田委員お願いいたします。

吉田委員 グループワークであったり、年齢・子育てって言ってもスパンが広いのでっていうこともありましたけれども、私もこのテーマがちょっと大きくて、そして、どうしても自分の分野に絞られてしまうので、自分のやっтерることっていうところで意見を出してしまうこともあると思います。せっかく子育て応援プランがあって、今後これについての計画の見直しも考えておりますっていうお話もありましたので、こういった中からもう少しポイントで、今回は学校のことといったようにいろんなことで、もうちょっと絞っていただけると。この大きなテーマの中のこれについてっていうことだと、もうちょっと絞られてきて話が。そこに集中してくるかなっていうふうに思いますので、ちょっと意見としてですけどもどうでしょうか。

岡田会長 はい。ありがとうございます。そういうことで言うと事前の意見聴取も含めて、事前にある程度狭いところのテーマでお答えをいただいております。その会議でも実際にその部分を中心に話すというふうなスタイルを検討したいというふうに思います。根本的にはやはりこの会議年間20回というわけにはいきませんので、回数にも限度がある、1回当たりの時間にも限度があるんですが、なるべく積極的にご意見いただく。それから出すだけじゃなくて協議して練っていくみたいなこともできる方がいいだろうと思いますので、なるべくそういう意味ではあちこちに飛ばないように、少しテーマを絞って具体的な議論を積み重ねていくということも考え、そのためには事前に、ここの部分でご意見くださいということも絞って頂くような会を作るように考えてみたいと思います。他にいかがでしょうか。実際にはここまで来ていただくのにも旅費がかかっていたり、いろいろ課題はあるだろうと思うんですが、場合によっては、例えば学習会として今回の相澤先生のお話なんかもうちょっとじっくり時間を掛けて聞きたいなということもあるので、自主参加の学習会がどっかにあったりとか、終わった後自由参加の交流会があったりみたいなこともできたら素敵だな。まだアイデアの段階でしかないんですが、そんなことも含めてちょっと、近未来的には検討したいというふうに思っております。会議の持ち方それから話し合いたいテーマ等について、他にご発言ございませんでしょうか。では今回は一応これぐらいにして次回以降もっとお気軽に積極的にご発言をいただいで、なるべく協議をするような形を多く持ちたいと思います。本日の協議は以上で終わらせていただこうと思います。貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございます。また今後第2回以降も、ぜひ積極的にご意見を書いていただき、またご発言いただければと思います。よろしくお願ひいたします。それでは進行を事務局の方にお返しいたします。

事務局 委員の皆様方には大変貴重なご意見ご提言をいただきまして誠にありがとうございます。最後に知事から一言お願ひします。

佐藤知事 大変貴重なご意見ありがとうございます。岡田会長そして相澤副会長をはじめ皆さま、今いろんな議論が出るというお話をさせていただきましたけど、それぞれの委員のお話から、こども・子育ての課題というのは非常に幅が広いと。少子化対策とかそういうところに絞られるものではなくて、もっとずっといろんな課題を考えていけないといけないし、もう一つはやはり先ほど何人かの委員の方からお話がありましたけど、こどもも課題とか困りごとを抱え、お父さんお母さんをは

じめ保護者の方も抱え、そして、こどもを支援していただいていたたり、救っていただいていたたり、助けていただいていたたり、守っていただいている方々とか、施設の方々とかも、やはり困りごとを抱えています。たくさんの方々の抱えの中で、いろんな工夫をしながら少しずつ対策も取ってきていますけれども、それでもやはりまだまだ不十分なところはたくさんあるなというのを改めて感じさせていただきました。そういう意味で今日の自己紹介と合わせた委員の発言というのが私たちにしてみると大変役に立つ、意味のある、意義のあるご発言をいただいたなということで心から感謝申し上げたいなというふうに思います。また、絞ってのご議論もありがたいですし、今のように、それぞれお立場が違い、それからお子さん方一人一人もまた違い、そのお子さん達を育てていき、そして守っていかないといけない。相澤先生がご専門で、児童相談所の議論の時も大変お世話になりましたけれども、そういうお子さん方もいらっしゃるし、保護者がいないお子さんもいらっしゃるし、そういうこどもたちそれぞれにどういうふうに向き合っていくかというのを、ご自身の体験を話していただくと同時に他の方々が聞くことによって、そういう立場でまた考えていただくということもまだできたのではないかなというふうに、今日お話を伺って感じました。

一つ、大分市長を8年したものですから待機児童の話がさっきありまして、待機児童は今一応ゼロと言っていますけど、ご存知のとおりだと思うんですけど、未入所児童というのが600人ぐらいいます。これはここの保育所でしたら入れますけども、ご希望のここの保育所ですとちょっと今いっぱい無理なんですよっていう時に、もう結構です、と言われると、待機児童ではなくて未入所児童にカウントします。この未入所児童600人ぐらいも含めてできるだけゼロにしたいということできずずっとやってきて、やってきていることの主なものというのやはり認可保育所の定員を増やそうということなんです。公立はやっぱりなかなか増やせないんで、民間の保育所に委託をお願いしています。今何が起きているかといいますと特に大分市におきましては、こどもがどんどん減ってきています。成人するお子さんが毎年4,500人ぐらいで生まれてくるお子さんが3,500人ぐらいなものですから、千人ぐらい減っています。それで、民間認可保育所の皆さんっていうのはやはり、今後ますます減ってくるとすると、定員が増やせないんですね。要するに今後入ってくれなくなると、園の運営ができなくなるということで、増やせないっていうところに今来ています。認可保育所の定員をずっと増やしてきていたんですけど、そこがだんだん難しくなっているという状況が片方であるものですから、おそらくぎりぎりのところで未入所児童であるけれども本当は待機児童と。もうほとんどイコールだという方がこれからまだまだ出てくる可能性があって、このように非常に難しい状況があります。そういう状況の中で、例えば、公立の保育所と、民間の認可保育所と、それから幼稚園のところは少しニーズが減ってきているんですけど。さっきこどもが3,500人になったと言いますが、その中で、保育所に入りたいお子さんの数はまだまだ実は増えているんです。やはり預けてお仕事をしたいという、特に保護者の中でもお母さんのニーズがまだまだ増えているということがあると思います。ただ、将来を見て、民間の方が考えたときになかなかちょっと増やしにくいなという状況が出てきているので、今よりも、そういう意味で待機児童問題・未入所児童問題がちょっと難しくなってくるところがあると思います。その分、きめ細かくお話を伺いながら、何とか対応しているはずではございますけども、またいただいたご意見もやはり大変重要なご意見だと思いますし、やはりニーズに応えていくことが大変重要だと思いますので、そういうこともちょっと合わせて感じさせていただきました。

やはり、こうやって大変幅の広い、こどもを中心とした取組というのは、これからやはり本当に未来に向けて一番大事な課題だということを冒頭にも申し上げました。岡田会長をはじめ皆さん、まとめるのは大変ご苦労されるかなというふうには思いますけども、これからまた引き続き何卒よろしく願い申し上げます。本当にありがとうございました。

事務局 ありがとうございます。委員の皆様方におかれましては長時間にわたる貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。1点、お詫びを申し上げます。藤田委員の事前意見につきまして、こちらの不手際がございまして掲載がなされておりました。誠に申し訳ございませんでした。また、意見交換の最後で子育て情報の周知等についてご意見いただきましたが、県でも、子育て情報を必要な方に必要な時に受け取っていただくよう周知をしたいと思ひまして、昨年子育て

て支援のポータルサイト「子育てのタネ」というホームページを開設しております。子育て支援情報だとか、子育てのQ&Aだとか広く情報を載せておりますので、もしよろしければそちらの方もご覧ください。また、インスタグラムやフェイスブックでも子育て情報を随時提供しておりますので、関係者の方々に周知していただけると助かります。よろしくお願いいたします。

次回の県民会議は2月21日水曜日を予定しております。詳細につきましてはまた別途ご案内をさせていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。では、以上をもちまして、令和5年度第1回おおいた子ども・子育て応援県民会議を終了いたします。ありがとうございました。